

第2回 函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会 議事録

○開催日時：令和4年8月24日（水）14：00～15：45

○開催場所：サン・リフレ函館2階視聴覚室

○出席委員：奥平委員長，菊池副委員長，石郷岡委員，上野山委員，酒本委員，
中村(馨)委員，中村(和)委員，丸藤委員（計8名）

○欠席委員：なし

○傍 聴：報道機関3社

○事務局：佐藤市民部長，鹿磯次長，兵吾市民・男女共同参画課長，奥ヶ谷主査

.....

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）前回発言要旨の確認について

（2）検討事項について（2回目）

3 その他

4 閉 会

1 開会

(事務局 奥ヶ谷主査)

定刻となったので、第2回函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会を開催する。

この会議は、原則公開で行っている。また、本日の会議は、15時45分までには終了したいので、議事の進行に協力をお願いする。

本日の会議の出席数は、委員8名中8名の出席により、函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会設置要綱第6条の規定により本委員会が成立していることを報告する。

ここからの進行は、奥平委員長をお願いする。

2 議事

(1) 前回発言要旨の確認について

(奥平委員長)

本日2回目の会議ということで、また忌憚のないご意見を頂戴しつつ、議事の進行をできるだけ速やかに行い、目標時刻を15時半くらいに設定するので、みなさんの協力をお願いする。

それでは、早速だが、議事の(1)前回発言要旨の確認について、事務局から説明をお願いする。

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

－資料1，資料1（参考）に基づき説明－

(奥平委員長)

ただいまの説明について、意見、質問等はあるか。よろしいか。それでは次に進ませていただく。

(2) 検討事項について（2回目）

(奥平委員長)

議事(2)検討事項について、事務局から説明をお願いする。

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

－資料2に基づき説明－

(奥平委員長)

それでは、持続可能な町会運営の方法について検討に入るが、まず始めに、改めて、本検討委員会は何をするのかということを確認したうえで議論を進めていきたいと思う。

本検討委員会は、町会運営・活動の担い手の負担感を軽減し、持続可能な町会へ転換するための手法について検討する委員会となっている。

前回の会議では、町会の必要性や加入のメリットについての意見もあったが、今回の委

員会では、これらの点については検討項目ではないので検討は行わず、ただいま説明があった資料2のいちばん右端の論点と書かれた部分について、今日は集中的に話を深めていきたいと思っているので、よろしくお願いします。

それでは、検討に入るが、「業務のスリム化・方法の見直し」「近隣町会との合併」「なり手・担い手の確保」に大きく区分されているので、各区分ごとに議論を進めていきたいと思う。ぜひ、たくさんの意見を頂戴できればと思う。この会議は検討委員会なので、みなさんからの意見がないと先に進めない。その意見をどう集約していくのかというのは最終的な部分になる。まずは、議論の元になるような内容をどんどん出していただくというのが大事だと思うので、よろしくお願いします。

では、まず、「業務のスリム化・方法の見直し」について、進めていきたいと思う。

「たな卸しや住民ニーズの把握など、業務のスリム化を進めるには」、「コーディネーター役への転換を進めるには」を論点とする。

丸藤委員、お願いします。

(丸藤委員)

たな卸しについて、昨年、大手町会に町会活性化アドバイザーとして、たな卸しのワークショップをさせていただいた。

その時もちょっと感じたが、町会に、たな卸しが必要だから、たな卸しについて話し合ってくださいと言っても、そうは言ってもどういうふうにやればいいのかノウハウも全然持ってないし、町会はそれぞれ自分のやっている活動に対しては、大なり小なりある程度必要性を感じていたり、プライドもあるだろうし、なかなか自分たちでこれは絶対いらんいとは言いづらいと思う。

なので、たな卸しをやるのであれば、外部の私みたいな立場の人間で、たな卸しのやり方、ワークショップのひとつの方法みたいなものを、ある程度経験している人間が入って、その人を軸にしながら一緒に考えていくことが必要かと思う。町会だけだとすごく難しいのかなと思っている。

最終的にこれがいらんいというのは、町会自身に決めていただくのだが、繰り返しになるが、やり方のノウハウを持っている人に入ってもらって一緒にやらないと、そういう話し合いを進めていくということが、今まで経験したことがないと思うので、難しいのではないかと思う。

(奥平委員長)

たな卸しの場合には、外部者の視点がもしかしたら必要なのではないかというご発言かと思う。次に、中村(和)委員、お願いします。

(中村(和)委員)

町会の業務について、町会に加入していても関わったことがないので、非常に申し訳ないが、どういったことでどれだけの業務があって、みなさんがどれだけ苦勞されているか

というところがわからないが、そもそも、町会の中に入っている方が、高齢者の方が多いとか、同じ方がずっと繰り返し役員になられているということを考えると、新しく若手の人とかが入ることで、一人にかかる業務の負担が少なくなったり、組織自体ももうちょっとがっちりしてくるのかなと思う。

私は、中をこうしましょうという前に、もう少し町会に加入する方が増えることで活性化されていくのではないかという視点で考えていたので、また後ほど、「なり手・担い手の確保」のところで提案させていただく。

(奥平委員長)

今の発言を聞いて、私も実は、班長をやっているが、町会の仕事がなんだかよくわからないところである。

たな卸しというが、仕事がどれだけあるのかわからないというのが現状なのかなというところで、そこがまた実は今回の狙い目でもある。逆に言えば、町会には、どんな仕事があって、どれが必要でどれがいらぬかというのを、これは第三者機関なので、ここで揉んでもいいのかなという部分もあるし、また、町会の関係者の方もいるので、例えば、他の町会と共通することをスリム化していければいいのかなと感じたところである。

(上野山委員)

町会のたな卸しについて、実際私も役員をやっているなかで、自分たちがずっと長く続けてきたことが、果たして正しいのか正しくないのか、必要なか必要ではないのか、他の町会はどうなのだろうかというのを比べようがない。

また、市役所に、他の町会の総会資料を見せてもらいたいと話したら、直接、他の町会に行って見てくださいといった回答だったので、近くのところは何件か見たが、やっぱり、うちがやっていることが正しいのか、また、不要だと思うけどやらなければいけないのだろうかということが結構あった。

このため、新しい人に入ってもらっても、そのまま引き継ぐとなると、無駄なことも引き継ぐことになる。

なので、新しい方に入ってもらう前に、そこそこの町会でやること、必要なことを一律にはできないので、他の町会と交流して、意見交換して、うちはこれが必要だった、必要なかったということを整理してから、新しい人に入ってもらった方がいいかなと考えている。

人を増やすことも大事だが、まず自分のところをスリム化して、必要なものを整理してからと思っている。

(奥平委員長)

内部の話をお伺いしていて、実は各町会の業務が何かという部分が見えないまま論議すると、スリム化できないのではないかという気がする。

事務局にお願いしたいのが、いわゆる町会業務とは何かというのを、各町会のデータを

もらえると話が進めやすいかなと思う。

町会にある専門部も町会によって違うのではないかという気もしている。標準的なものと標準的でないものがあるような気がする。町会によって、業務がバラバラという可能性があるのかなというところもあるので、そういったところが分かったうえでスリム化の話を進められればいいかなと思う。

今回、この会議の中で、結構大きな部分を占めているのは、スリム化である。スリム化の話が進まないというのは、実は何が業務かわからないからスリム化できないというのがあるので、事務局でリサーチしてもらい明らかにできればと思うが、事務局いかがか。

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

専門部自体は、各町会によって数が違ったり、名前が違ったり、役割が合体しているものがあったりなど、町会の規模や、今まで運営されている経過、そういった中でいろいろ進化、変化を遂げながら今に至っているのかなと思う。

業務内容は、いろいろ地域の歴史や、若い方が多いとか、ご年配の方が多いたとか、そういった中でいろいろ違いがあるのかなという部分は当然あるかと思う。

市として、全部の町会の細かい業務、行事を全部把握しているのかということとできていない状況である。

平成31年に、各町会が提出した町会アンケートをまとめている。この中で、現在、町会として活動している事業について、市の方で選択肢をつくって複数選んでもらったものを集計していて、その中で、例えば、清掃活動、街路灯の維持管理、資源ゴミ回収、防犯、防災など、かなり多くの町会がそういった取り組みをされているという実態は、押さえている。

(奥平委員長)

それを次回にでも出してもらえると、なんとなく、みんな同じことをやっているのか、違うのか分かると思うので、スリム化の話がさらに進めやすくなる。各町会ごとでなく、全体でよい。

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

当時は、145町会が回答している。

(奥平委員長)

分かれたデータ、元データはあるのか。

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

集計の元データがあるので、全体に占める割合もわかる。ほぼ8割の町会がやっているなどが見えるデータはある。

(奥平委員長)

それを出してもらえると、かなりスリム化が進めやすいかなと思う。

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

大きな項目でしか聞いていないので、かなりアバウトな回答になっていると思うので、目安程度に捉えていただければと思う。

(奥平委員長)

それでもないよりは、絶対にいいと思う。スリム化については、次回、データを元にして、もう少し深めたいと思う。

また、私から質問があるのだが、たな卸しとは、そもそもなんだろうと思いながら話を聞いている部分があるが、たな卸しの意味が分かる方いるか。

(酒本委員)

ちょうど今、いろんな自治体と一緒に町内会の活性化、町会の活性化をやらせていただいている。

たな卸しというのは、ほぼニーズがないのに、まだ伝統的にやっているものなどが結構あり、前回も話をしたが、高齢化で子どもがいない町内会が子ども神輿を行い、子どもを集めるのが大変で、そこですごい役員が疲弊しているということがあり、それでいろんな活動を並べて、ニーズと参加度で縦と横の軸で落としていくと、全く参加が少なくてニーズも低い活動というのが結構あり、それはもうやめていただくと、逆に参加している人も多くこれからも大切だという、端的にいうと夏の盆踊りや、清掃活動はそこに入るのだが、そういったものは、やっぱりこれからも活動として位置づけていくべきだということで、そういった参加度とニーズ、これからのも含めたニーズでこの活動はやめていこう、この活動は休止しようという作業と考えており、たな卸しをして役員の負担を軽減していくということを、いろんなところでやらせていただいている。

これには、ひとつ難しいことがあり、アンケートをとったほうが確実に縦と横の軸がつくれるのだが、アンケートをやるのがすごくハードルが高い。そのため、アンケートをやらないでどうやるかということで、町内会の主な活動を並べて、役員でいる、いらぬの評価をしながらできないかということ、今やり始めている。

それと併せて、さっき話に出ていた自分たちの町内会が何をやっているのかわからないというのは、結構いろんな町内会で必ず出てきて、まずマニュアルをつくらうと、自分たちの町内会が、4月から始まって3月まで何をやっているのかというマニュアルをつかっていきたいと思いますと話している。そのマニュアルをつくるプロセスの中で、こんなことをやっていたんだ、もういいのではないかという活動が必ず見えてくる。

マニュアルづくりとたな卸し、活動の見直しというのを平行で進めるとよいと思う。

(菊池副委員長)

いる、いらぬ、もしくは必要度が低いとか高いというのはあると思うのだが、まず業務の洗い出しというのは必要だと思うが、基本的に共通項としてある活動があると思うので、それらに関して、市の方で支援が何ができるかという洗い出しも必要だと思う。

例えば、清掃活動や見回りについて、シルバー人材センターなどが手伝えるもの、もしくは補助が出せるとか、市にある何かサービスというか支援を兼ねられるものがあれば、そこをお願いしようかなということ、少しスリム化への一助になるのかなと思うので、そういうものを出した方がいいと思う。

町会だけでなんとかカットするのではなくて、市役所からの、市役所だけではないかもしれないが、何か市全体として支援ができること、そういう取り組みがもしあれば、そういうものも出した方がいいと思う。

(丸藤委員)

去年、大手町会でたな卸しをやったときに、実際問題、町会独自の事業はすごく少なくて、ほとんどがお付き合いというか、市全体のなんとか会議があるとか、どこそこ区域のなんとか会議があるとかという、お付き合いで出なければいけない会議の数が多くて、それが役員、町会長の負担になっているというのがよくわかった。

各町会では、それぞれ必要だと思われるのでやっているのだから、なかなかそこに対して、これをやめようとは言いつらいのかもしれないのだが、この委員会では、例えば、似たような会議が2つか3つあるのであれば、それを一つに絞って一つの会議でうまく集約してやれないかなど、町会に入っているとどうしても出席しなければいけないような、たくさんある会議の方をこっちで少しスリム化してあげると、結果、町会の負担というのも、会議の回数が減るので、だいぶ楽になるのではないかと、そこら辺の提言を考えていたらおもしろいかなと思う。

(奥平委員長)

実際、お付き合いしなければならぬ会議がどれくらいあるのだろうか。相当な数あるのか。もしかしたら地区によって違うのかもしれない。

(中村(馨)委員)

私も大手町会のたな卸しに参加していたので、そのとおりだと思う。ただし、大手町会は、行政や充て職の委員会に委員として参加するのが、たまたま多かった町会だったと思う。

それはなぜかという、当時の大手町会長は、町会連合会の役員をやっており、充て職にあたる可能性が高いので、いろんな会議に出ることになる。

町連を経由した充て職に関しては、把握できるのだが、それ以外にも、直接、町会長に頼まれる充て職もかなり多いと聞いているが、そっちは把握できていない。

町会連合会の何かの役員をやってる町会は、そういった行政の会議が多いと思うが、そうでないところでも、学校や包括、関連団体との打合せというのは、いくつかあるかと

思う。

そういう意味でのスリム化みたいところは、やはり同じようにできるのかなと思うが、ただし、これは各町会によってかなり温度差があると思うので、町会ごとに考えていく必要があるのかなと思う。上野山委員のところはどうか。

(上野山委員)

うちの町会長は、町会の仕事以外にも民生児童委員の主任をやっていて、民生委員がいなくなったら、その次の人を探さなければいけない。

国勢調査なども含め、何かあれば町会で探してくださいということは多い。

他には、北部の地域の町会長の会議が月に1回あるが、多いのか多くないかわからない。

(中村(馨)委員)

上野山委員のところの町会長は、町連の役員ではないので、充て職はない。

今、北部の会議が出ていたが、町連は、5つの地区に分けてそれぞれ協議会を持っている。北部地区というのは、月に1回、町会長を集めた会議をやっているようなので、たぶん、それに出ないといけない。他の地区は、そんなに頻繁にやっていない。

また、民生児童委員の話があったが、町会の役員は、民生児童委員も兼ねているところも多いので、そうすると町会の仕事とは別に民生委員の仕事があったり、また、保護司になっている方は、町会の仕事以外に保護司の仕事があったりするが、これは、今ここで切り離れた方がいいと思う。

なぜかという、違う団体の話だからである。ただし、裏ではそういったことが、町会長、町会の役員にはあるのだということは、ここにいるみなさんに理解いただいた方がいいかと思う。

(奥平委員長)

外部の仕事というのが、実は、町会の業務自体を圧迫する可能性があるということは、今回、共通認識になったのかなと思う。外部の会議が増えるということは、悪いことではないと思うが、それが負担になっているということが、逆に町会の業務自体を硬直化させることになるなら本末転倒かなと感じる。

実際、市役所が町会にも声をかけるような会議というのがどれくらいあるのか。

(中村(馨)委員)

町会連合会は、函館にある町会の連合体なので、町連としても専門部を設けている。専門部をつくったいきさつというのは、各町会でこういう専門部が必要だと、町連には9つの専門部があるのだが、これがたぶん集約されたものと考えている。

ただし、どこを強調してやっているかというのは各町会で違う。それぞれの専門部がどんなことをやっているのかというのも、一行で書けと言われて書けるが、それをどうい

うふうにやっているのかということだと思う。

次に、市から頼まれている、市だけではないのだが、いろいろな関係団体から頼まれている充て職の一覧も、町会連合会を通じて依頼されたものに関しては手元にある。

ただし、直接依頼されたものは町連にはない。たぶん市にもないと思う。

例えば、防犯協会だけでも函館には中央防犯、西防犯2つある。また、函館方面協議会など、町連でも把握しきれないぐらいの組織がある。そこがそれぞれの町会長に、委員になってくれませんかというのがあると思う。交通安全協会とかもあると思う。その辺は、たぶん市でもわからないのかなと思う。あまり、市に負担をかけるのもよくない。

(奥平委員長)

スリム化の話を進めていくと、町会には、町会以外の仕事もあるというのが見えてくるので、本当にスリム化をしないといけないと思う。次回もまたスリム化については、話していきたいと思う。

(酒本委員)

もうひとつスリム化で考えていかなければいけないことがあるかなと思うのは、「なり手・担い手の確保」のところと少しつながるのだが、この間、ある町の子育て世代の方々に、町内会、町会をどう思っているかというヒアリングをしたときに、回覧板を回すことが、わずらわしいという意見があった。

全員がそういう発言をしたわけではないが、今は、みんなスマホで情報を取りに行くので、学校だよりや、なんとかだよりというものは別にいらないと。わざわざ回す必要はないのではないか、デジタル化できるのにされていないから大変ではないかという話だった。

また、本当にこの業務はやらなければいけないのかという、清掃はみんなでやったほうがいいが、廃品回収、資源回収のときに見回りをいちいちみんなで行わなければならないのかなど、いろんな課題がたくさん出され、スリム化した方がいいという話が出ていた。

役員の方々からのスリム化もあるのだが、町会の活動のデジタル化も併せたスリム化というのを考えていく必要があるのではないかと思う。

回覧板が筆頭だが、子育て世代の方々というのは、自分たちの欲しい情報を自分たちで取りに行く世代なので、回覧板はほとんど見ないと言っており、そういった中で業務のスリム化も、DXではないけれど、デジタル化の中でのスリム化を、今後はしっかり考えていかないといけないのではないかということで、次回、その話もあっていいと思う。

たな卸しと業務のスリム化、そしてデジタル化を考えていく必要があるかなと、ヒアリングをして改めて感じたところである。

(奥平委員長)

この問題は、かなり大きいので、もう一回継続して話を進めるのはいいのだが、全部その先はつながっているので、結果的に元に戻るような気もするが、とりあえず進めていきたいと思う。

次に、「コーディネーター役への転換を進めるには」ということだが、コーディネーターとはなんだというのが、次、問題になってくるのではないかなと思うのだが、上野山委員は、役員をたくさんされているということだったので、そういう意味で、コーディネーターとはどういうものだと思うか。

(上野山委員)

私もピンときていないのだが、町会をコーディネートしてくれる方がいるとなれば、たぶん、学校と一緒に行事をするぐらいしか浮かばない。

学校運営委員会に顔を出したことがあり、町会だけでなく、地域のみんなでやりましょうというコーディネーターの話も聞いているのだが、私の町会は学校も遠いので、コーディネートしますと言われてもピンとこない。

そうなれば、町会の役員として、いろいろ一緒にやってくださいということになってしまう。

(奥平委員長)

町会がコーディネートするのか、それとも町会をコーディネートするのか、コーディネーターとはなんだろうというのをまず定義付けしてからでないと、わからなくなってくるのかなと感じるが、どんどん、意見を頂戴できればと思う。

(酒本委員)

コーディネーターの話は、私が前回したと思うので、責任を持って私の私見でお話させていただくと、いろんなNPOから話を聞くことがあって、自分たちが持っているノウハウを、例えば子育て支援のノウハウとか、さまざまなノウハウを持っているのだけれど、どこの地域でそれを展開していいかわからないと、なので、そういう場が欲しいという話を聞く。

一方で、町会は、子育てサロンをやりたいのだけれど、自分たちにはノウハウがないというようなことは多々あるのかなと思う。

その時に、町会の会長や役員がNPOと手を組みましょうと。そして、うちの地域で子育てサロンをやりたいというようなコーディネートができるようになるといいと思う。自分たちの地域コミュニティに何が必要なのかというのをしっかり考えて、その課題に対応して外部と手をつなぐというようなことを、しっかりコーディネートというかマッチングできるようなことが、これから最低限必要ではないかなと思う。

全部が全部、町会で社会課題に対して解決できるという時代は、もうきつくないのだろうと考えると、そういったコーディネート力というのが、町会に求められるのではないかと考えている。

(上野山委員)

函館だと、子ども未来部、地域包括支援センター、地域コーディネーターと何がどう変

わってくるのか。

(酒本委員)

私は、函館市のくわしい状況がわからないのだけれど、地域が何を求めているかというのは、たぶん町会の方がよくわかると思う。上野山委員のところだと、中学生がバスで通いたいとか、そういったニーズに応じて、きっと、上野山委員の町会は、函館市とバス会社と三者、手を組んで事業を進めたと思う。これは、まさしくコーディネートしたということだと思う。

そういったことが僕は大事ではないかと思う。それは、いろんな部局をまたがなければいけないかもしれないけれども、地域コミュニティに何が必要かというのを考えて、こういったところとこういったことをやりたいんだという、事業コーディネーターみたいなことが、これからの町会には、すごく重要かなというふうに思う。

町会によっていろんな課題が、高齢化が進んでいるところは、子育てより高齢者の見守りが必要だと、だったらどこと何を組むかという話が出てくると思うし、防犯の問題が大きな町会だと、防犯会社と手を組もうかとか、いろんなコーディネートが必要なのではないかと思うので、地域課題が多様化すればするほど、コーディネート力が町会には求められるのではないかと思っている。

(丸藤委員)

私自身もコーディネーターという役を任命されることがすごく多いので、コーディネーターとはなんだろうと考えた時があったのだが、「頼み上手になる」「つなぎ上手になる」それから「今、何が求められているのかなというのを把握するのが得意になる」それがコーディネートするということなのかなと思う。

だから、例えば町会で考えると、全部自分たちでやろうとしないで、自分の地域で、今こんなことが課題だとなったら、地域にこんなことが得意な人がいて、ちょっとやっってもらえないかという頼み上手とか、あるいは全然違う地域でも、NPOの話が酒本委員から出たけれど、あそこの団体に頼んだら何か解決してくれそうだとか、アイデアを出してくれそうだとなったら、ちょっとつなぐとか、そういう役を、頼み上手、つなぎ上手、今、何に困っているかを知る上手、この3つができるとコーディネートができるのではないかなと思っている。

(奥平委員長)

今までの話を総合すると、地域のニーズを吸い上げる力が強いのは、町会であり、まず、そこはすごい大事な機能である。

吸い上げる機能は、当然、町会が持っているので、次は、その吸い上げたものを町会で全部やってしまったら大変なことになるので、それをどう外に振るのか、自分たちでできることはやるけれども、できない部分については、違うところをお願いをできるかどうかというマッチングが大事になる。

マッチングまでいければ、町会がコーディネート機能を持つことになるのかなと思うが、今までは、町会が外に振らないで、全部自分たちでやろうとしてパンクしてしまうというのが多かったのだと思う。

その部分で逆に言うと、外部の環境も実は整っていないと思う。どこにお願いすればいいのか全くわからない状況で外注できない。外にどういう人がいるのかわからないとなると、どういうふうにして情報を流していくのか。例えば、ホームページとかフェイスブックでもなんでもいいのだけれど、そういうところで情報をいつでも手に入れられるようにできるのか、この後のデジタル化と関わってくる部分だとは思う。

今の時代、コーディネートするとなると、やはりデジタル化の能力もどうしても必要になってくるのかなというのもあるので、そうするとコーディネーター役へ転換するのはいいのけれども、その前に周辺整備をしなければいけない部分は必ずあるのだと思う。

どこに何を頼んだらいいかみたいなものを、調べたら分かるようにしてあげると次に進め、本当にコーディネートできるようになるのかなと考える。それがもしかすると、町会のスリム化にもつながっていくのかなという気がする。

頼めるものは、外に頼んでしまえという部分でいうと、実は函館市は、すごいボランティアの方が多い町である。ボランティアをやりたくて、うずうずされている方がたくさんいるので、そういうところも、新しい受け皿としてつくっていく必要があるのかなと感じる。

投げる方の相手側の方がちょっと今よくわからないみたいな状況になっているというのが、函館の場合、問題なのかなと思う。そうすると外注できないので、結局抱え込むしかないという状況になっているので、そこをどう解決していけるかというのが、この会議でお話をして、いろいろ報道の方々にも伝えていただくことによって、「私、これできますよ」みたいな話が、もしかしていろいろ動いてくる可能性があるのかなと思う。

(中村(馨)委員)

さっき、上野山委員は、町会をコーディネートしてくれるのかというふうに思われていたみたいだが、町会がコーディネートする方である。

(上野山委員)

それであれば、納得した。

(中村(馨)委員)

コーディネートの定義が、それぞれをマッチングできるものだったり、また、コーディネート自体、コミュニケーション能力がなければいけないし、周辺の知識もなければいけないしということで、ある程度みなさんそれは共通認識で持てると思う。

では、それを178ある町会に求めた時に実際できるのか。例えば、上野山委員の町会のように会長も上野山委員も若いからいいが、もっと70を越えた後期高齢者になった方々に、今、言ったようなコーディネート能力を求めるにあたって、本当にそれはできる

のかという、そういう心配がある。

前回、コーディネーターになってもらいたいという話が、酒本委員と丸藤委員から出た時に、素晴らしいなとそのとおりだなと思ったのだが、実際にそれを運用側としてやろうとした時に、どのくらいできるのだろうかという不安がずっと今まである。

そうすると、何か手助けをしなければならない。だから、そういった仕組みというか、まずそっちの方が先に必要になるのかなという気がする。

178ある町会で必要なものは、それぞれ違うと思う。例えば、上野山委員のところは、子どもが多いので子ども盆踊りができる。だから、そういうことを理解している人が一緒になって考えてあげるような組織があると、本当にこの町会コーディネーター論は大成功するのかなという気がする。

(上野山委員)

町会をどうにかしようとして考えているけど、受け入れ側の町会が、結局整理されてない部分がある。来てもらって、やってもらいたいけれど、何をやってもらうのか、どう伝えてやってもらうのかという受け入れ態勢ができていないと思う。

それは、先程から言っているスリム化であったり、たな卸しをして、万全の準備が整ってからだと受け入れやすいと思うので、同時進行にはなるのだけれど、受け入れ側も受け入れられる側も準備が整わないと進まないかなと思う。

(奥平委員長)

今の話を伺っていると、実は町会が持っているノウハウは、他の町会でも利用できるのではないかなと思う。

子ども神輿をやらなくなった町会のノウハウを、人口が増えて若者ばかりになった町会に持っていくと、うまく回るようになるのではないかな。

町会連合会の中での人材流動化というのも、あり得るのかなと思う。

(上野山委員)

もっと、町会同士の交流があればいいと思う。

(奥平委員長)

確かに、町会の間での人材交流があれば、もしかするとコーディネーターが簡単にできるのではないのかなという感じもする。

若い人が減り、高齢者ばかりになったということは、逆に言うと高齢者がたくさんいる町会は、昔やってきたノウハウがあるので、それを欲しがっている町会に対して提供できる。

そういうことが、もしかしたら閉鎖的な函館市内で達成できれば、画期的な試みになるのではと思う。

(上野山委員)

盆踊りも、実際踊れる方が町内では5, 6人しかいない。だから、その方たちに盆踊りをやってもらって、その人を見て、間違っているけどやったことがなくてもいいから踊ってみましょうというのが、今回の子ども盆踊りであった。

地元でやっていた盆踊りをやってくれる方が町内にはいないけど、隣の町会には、もしかしたらいるかもしれない。その隣にもいるかもしれないとなった時に来てもらえるように、できたらいいなと思う。

(奥平委員長)

そこから進めるのが、もしかしたら一番早いのかなと感じる。ノウハウの共有化みたいなことになる。

コーディネーターの話でかなり盛り上がったが、コーディネートするということは、実は協力するということなのかなという感じがしてきた。その辺を少し、次回もまた話を深めていければいいかなと思っている。

続いて、「近隣町会との合併」についてだが、みなさん、どのように考えるか。また、最近、函館市内で合併した町会はあるのか。

(中村(馨)委員)

3年か4年に一つぐらいずつ事例はある。

今まで合併になったのは、小さい町会が役員のなり手がなくギブアップして、隣の大きな町会に吸収されるといった合併で、合併の1年くらい前にお互いの町会で話し合っ、両方のコンセンサスを得て合併するというケースである。

現在も合併作業をしている町会がある。そこもやはり、する方とされる方に分かれる。対等合併は、まずないと思う。なぜならば、対等であれば、合併する必要がない。ということで、現在進めているのは、本当に小さい、加盟世帯が60世帯ぐらいしかない町会が、250世帯ぐらいある町会に吸収されて合併になる予定である。そこに、市と丸藤さんと私も一緒になって、合併のためのノウハウづくりみたいなのを含めて、今、進めているところである。

ただし、町会の合併でいろいろ難しいのは、町会の成り立ちが違っていると、なかなかそこで共有できない。特に函館、田舎の方では、ひとつの神社が町会の基礎になっていたりで、そうすると、神社仏閣の合併はないので、町会だけ合併するわけにいかないとか、あとは、特に西部地区、函館山の麓の方は歴史ある町並みなので、町名や町会名にプライドを持っているところも多いので、そこが困るところである。

実は、今年度になってから3つぐらいの町会から、もう町会を維持できないからギブアップだから、なんとかしてくれという電話がかかってきた。

そこは、もう簡単に「解散する。もう会長のなり手がいないから解散する。」と言うので、困ったなということで役員会を開いてもらったら、解散するとどういうことになるのか、まずそういうことも全然理解していなかった。

次に合併すればいいとなったが、でもそこは神社を持っているところで、隣も神社を持っているが、その関係は全く考えていなかった。

また、「隣の町の町会名を、あなたの町の町会に名乗ることになりますけどいいですか」と聞いたら、それはできないとなり、街路灯の維持の問題もあり、結局、もう少し頑張るということになった。

しかし、その町会長は、80を越えているので、やってもあと2年、その間に何か手を打たないといけないと考えている。

そんなかたちで、ギブアップしてくるところには、何か手を携えながら、合併する場合は、それぞれの町会が納得できるようなかたちで、もっていかなければいけないのかなと思っている。ただし、簡単ではないと言っている。

(奥平委員長)

法律の観点から石郷岡委員、合併について何か意見はあるか。

(石郷岡委員)

合併の手続き、法律で定められている手続き自体は簡単である。

ただし、中村委員から話があったとおり、法律の手続きの部分ではないところが難しい。

僕は、たぶん、函館の場合は、町名のところ、町内会の名前、そこが一番難しいだろうと思うし、また、町内会費が違うところの合併の時の町内会費をどうすればいいのかというのも問題だし、合併する時に、吸収合併される方の町内会に予算が余っていた時の使い方というのも問題になってくるかなと思う。

合併をどうすれば、法律的にどうすればいいかは、それこそ外部にコーディネートしてやってもらえばいいわけだから、弁護士とか行政書士とかに。

そうなってくると、具体的にどこ町会とどこ町会が、合併についてどんな問題があるのかという、ケースごとの対応でないとなかなか難しい。一般論として示すのは難しく、法律論ではないのかなと思っている。

(奥平委員長)

合併については、合併が進みかかって止まっているとか、もう終わったところとか結構あるのかなと思う。私の住んでいる近くにも、たぶん合併したのだろうと、抱き合わせみたいなすごい名前の町会もあるので、そう考えると、合併というのは起きてもおかしくはないという部分ではあるのかなと思うのだが、個々のケースに応じてというかたちでいくしかないのかなと感じる。

(上野山委員)

合併で、どこまで大きくなっていいみたいなことはあるのか。合併、合併でどんどん大きくなって、そうしたら市が困るとかあるのか。

(石郷岡委員)

町内会は、規約で区域が定まっているので、どこまで大きくなったらだめとかそういうルールは特にない。ただし、その区域が規約上、明確でなければならないというルールはあるから、あんまり広すぎるとどこまでなのかなみたいにはなるのかもしれない。

ただ、函館は、小さい市だけでも町が多い。そして、だいたい町ごとに町内会になっているから今は明確な状況である。町と町内会の名前が全然違っていたら、わかりづらい。

(酒本委員)

町内会の合併は、たぶん小さなところが、さっき出ていた60世帯とか、僕の住んでいるところだと90世帯とか、すごい小さいのだけれど、そういった小さな町会が、担い手がなくてこれ以上運営できず、だから合併というひとつの選択肢が出てくると思う。

そのときに、例えば、ホールディングス化みたいに関業委員会はひとつだけ、それぞれ実行は今の町内会でやっていきたいと思います、連携してやらないといけない大きなお祭りは連携しましょうとか、ケースバイケースで、いろんなパターンがあっているのではないかなと思う。

本当に合併してしまえばいいというものもあるし、ホールディングスみたいにして、連合運営委員会があって、そこに別々の町会があるっていうのもいいと思うので、とにかく小さな町会が、運営が厳しくなってきたときにどう救えるかという仕組みを考えておけば、そのひとつの選択肢として、合併とかそういったところが出てくるのかなと思っている。

(石郷岡委員)

確かに、町内会の合併だと嫌だから、連合形式にするというケースもいろいろ調べていたらあるが、ただ、連合のケースにしたとしても町内会自体は残るから、それが例えば認可された地縁団体だとすれば、年に1回総会をしないといけないし、それは絶対、町内会としてやらなければいけない。そうすると連合会の業務が増えることになり、既存の業務は減らない側面もある。ただ、祭りとかは一緒にできるから楽になるかもしれない。

また、認可地縁団体ではなく、普通に権利能力なき社団だとしても、連合にしたから、うちの町内会では一切、総会開かないとなったら、それはそれで権利能力なき社団としての実態がそもそも存在しなくなってしまう、本当にここで町内会として存在しているのかという問題になってくるから、そうすれば純粋に連合会形式でやるというよりも、隣の町の人と、祭りをやっているなら一緒にやればいいとなるのではないかなと思う。

それは、一つ前の論点に戻って「業務のスリム化」「コーディネート」そっちの話で解決になるのかなっていう気がする。

(奥平委員長)

合併は、簡単に考えてはいけないものだということが、共通認識として生まれたのかなというところもあるので、合併までいかないようにするためにどうするかというのが、もしかしたら、この検討委員会の目的なのかなということもあるので、合併の話はこれくら

いにしたいと思う。

最後に、これが一番、話題が盛り上がるのかなと思うが、「町会員や役員に拘わらず、担い手を確保していくには」という問題について、みなさんから忌憚のない意見をいただきたい。

(中村(和)委員)

コーディネートのことにも関わってくる部分だが、私が今、関わっているところの話でいうと、函館市立の小学校、中学校にコミュニティ・スクールというものが導入されている。

それは、地域全体で子どもたちを育てましょうという目的があり、市内の全部の学校がそれを取り組みとして掲げていて、各学校には学校運営協議会というものがあり、その中でいろいろ、学校のためにどういったことができるかという話をしている。

その場で、例えば、町会が困っていることや、こういう行事があるのだけれど、こういうことでちょっと人手が欲しいとか、普段、こういう行事をやっているということをお話する場としてそこを使えたら、うちの地域の町会さんが困っているんだったら、ちょっと手伝いたいなっていう保護者の方が、もしかして出てくるのかなと思う。

町会が大変だということの発信は、コミュニティ・スクールで行うというふうにすれば、町会自身の負担は、少なく済むのかなと思い、そういう場を持ち、コミュニティ・スクールと連携することで、町会の役割や活動について、保護者の人や学校も知ることができて、そうすると自然と、一緒に何かできないかという話ができるのかなと思う。

実は、私は、学校と地域をつなぐ役目を今、仰せつかっており、そういうところに積極的に、何か困りごとがないか、一緒に何かできないかという声かけをする立場だと思っている。

昨年度までは、私みたいな地域コーディネーターという人が8人いて、今年度増えて13人になった。全ての地域に、地域コーディネーターがいるわけではないのだが、コミュニティ・スクールというものは、全ての学校にあるので、そこを通して、お互いの役割を、少しずつお手伝いできるとかという話はできるのかなと思う。

そういう中で、町会など地域、学校、PTAが協働できる活動というものを、ひとつでもふたつでも持つことによって、それぞれがお互いさまみたいな感じで活動していけるのかなと思う。そして、子どもたちも、そういうさまざまな行事や活動に、実際に参加して見たりすることによって、町会というものの存在をしっかりと小さいうちから感じることもできるのかなと考えている。

町会という組織がなければ、地域の方にこういうことをしますよとお知らせするのも、町会があるから、そこを通して、地域の小学校・中学校に通っているお子さんがいない世帯の方にも、そういう案内ができるのかなと思うので、すごく町会の存在というものは大きく感じている。

また、学校でこういう行事をやりますと、昔の遊びを子どもたちに教えてあげたいとなったときに、町会にいる高齢の方に先生になってもらうとか、どこかの学校では、5年生

のミシンの授業で、地域の人材を先生としてお迎えし、教えてもらうようにお手伝いしてもらっているなど、学校のお願い事や地域のお願い事を、PTAとかいろんな人たちと分け合って役割分担しながら進めていくことで、なり手とか担い手も、仮に町会に入っていないなくても、その行事だけ手伝ってくれればいいよということも可能になるのかなと少し考えていた。

(奥平委員長)

学校、特に小学校かと思うが、小学校との関係をどうするかという、小学校の人材を活用できないかという問題がある。

また、問題は西部地区だと思う。西部地区は、あんなに広い面積で小学校が少ないのにどうするんだという、1校に全部お願いするというわけにいかないのではないかなと思う。

そこら辺の問題をはらみながらも、なんとなくお願いできるようなところは、もしかしたらやっていくことによって人材の流動化もできるのかなと、町会に興味を持ってもらって、そこに入ってもらうということにもつながっていくのかなと話を聞いて思った。

(丸藤委員)

私は、まちづくりセンターのセンター長をやっているので、NPOからの相談がよくある。

NPOからも担い手不足、人がいないとか相談を受けるのだが、よくよく話を聞くと、具体的にこんな人に来てもらいたいとか、こんな人がうちの組織で不足しているんだということを意外に把握していなかったりする。あるいは、どれぐらい組織に関わらなければいけないのかというのが漠然としていて、ただなんとなく人がいないとか担い手がいないとかいって、相談に来るとというのが結構多い。

町会のことは、個々にくわしくはわからないが、もっと具体的に、例えば、パソコンでエクセルで経理ができて、週に何日間、週末だけちょっとできる人が欲しいとか、結構リアルに具体的にイメージをきちんとつくり上げると「そうだったらあの人できるのではないかな」となる可能性がある。

また、町会の人ではなくても、市内の町会を渡り歩く、エクセルを打てる達人みたいな人が会計をしてみわるとか、いろんなやり方があると思うので、何を言いたいかという、そもそも、どういう役割の人で、どれくらい関わる人が、どんな感じで必要なのかというのを、町会の方でもきちんと把握していただければ、担い手は、意外に見つけやすいのかなと思う。

さっきのコーディネーターではないが、お願い上手になれば「すみません、そこだけお願い」みたいに言えるので、そこを把握しないのに、漠然と担い手不足だと言ったりしているのが多い。

あともう一つ、せっかく見つかったのに、今まで自分がやっていることのプライドで、いい人がいても、担い手が入りたいって言っているのに、それを嫌がってしまう高齢の方もいて、そこが一番、実は難しい問題だったりするのではないかと個人的には思っていた。

(奥平委員長)

地域の人材をどう使っていくのかという問題。なんとなくアウトソーシングに近い話、方向性がそっちに向いているなどという感じである。他に何か。

(酒本委員)

いろんなところで町内会の活性化をやらせていただくときに、アンケートをとるとアンケートの中で、今、うちの町内会は担い手がなくて、解散の手前まで来ていますというふうにアンケートをとると、役員まではできないけど、イベントの手伝いはできますとか、情報発信ぐらいならできますという人が必ず出てくるし、たいがいアンケートをとると1人か2人、多いときは10人ぐらい役員をやってもいいですという方が出てくる。

だから、役員の担い手がいないという町会は、役員の周りの人にしか声をかけてない、顔が見える人しか、なかなか声がかけづらいから、だから見つからないという課題が一つあるのではないかと思う。

丸藤委員が言っていた、せっかく見つかったのに活かせていないというところも課題である。本当に、若い方が地域に貢献したいからといって、せっかく町会の役員会に来て、「それやってもだめだよ、そんなの今までやってきて失敗したんだから。」と言われて、結局、引っ越ししてしまった方とか、実際そういうのがあるので、そういったことがないように、ちょっと役員の方々に意識を変えていただくというのも大事ではないかなと思う。

また、仙台市で実際に起きているのは、担い手がおらず会計がなかなかできない町内会を支えるNPOをつくった町内会があり、そこで儲けている。

さっきのコーディネーターとは、また逆の下支えをする組織。中村委員、町会連合会が、たぶんそういったことを考えていただけるといいのではないかなと思う。

コーディネーターを支援するというのと、町会を下支えするというのを併せて持つておくと、函館市の町会は、少し安泰ではないかというような気もする。

(奥平委員長)

やはりアウトソーシング的な話になっていくのかなと思うが、他に何かあるか。

(菊池副委員長)

担い手という言葉が、責任を託しているような感じがして、そこがハードルが高いのではないかなと思う。

前も検討委員会で思ったのだが、担い手づくりというのは、先人というか高齢者とか役員の方とかの引き継ぎをするということではなく、その地域を支える人を増やしていきたいということが目的だと私は思っている。

そうすると例えば、経理ができないから経理ができる人を探してということだと、ただの引き継ぎになってしまうと思う。そうすると、「私はちょっと役員は荷が重い」みたいな感じで遠慮、もしくは最初から敬遠される方もいらっしゃると思う。

「関わる人を増やしていく機会を増やす」と言ったらいいのか、私は今、高専に勤めているが、高専にも、近くの町会から、例えば、雪かきでボランティアに来てくださいと依頼が来る。でも、学生は、ただでは動かないから、学校の方でボランティア単位をあげる。そうすると、ボランティアに行く学生が出てくる。そうして、町会との関わりが生まれるわけで、学校としてもイメージが上がるし、学生も単位がもらえて、町会は雪かきしてもらったり、あと、清掃活動もあるが、そういうことで、三者いいことづくしというような気もする。

だから、そういうふうに、例えば、大学とか近隣にある企業、もちろん近隣に大学も企業もない、小学校も1つしかないというところもあると思うが、そうだとしても何か、メリットデメリットで動くというのはどうかとも思うのだが、ある程度、地域の人たちだけではなくて、例えば、函館市にある企業とか、函館に関係のある企業、大学、高専、専門学校、高校いろいろある。

そこで、あえてちょっと遠いところの町会との関わりをコーディネートになるのかわからないが、もちろん、地域でするのが一番いいと思うのだが、それが難しければ、もう少し広域で何か手伝えることがあれば、企業だとマンパワーもあるので、そういう地元で貢献したい会社というのは結構あって、例えばお祭りを手伝うとか、出店を手伝うとかという企業もいるので、それが、ちょっと遠いところでもお願いできるのではないかなと思う。

私は、大規模小売店舗の審査部会の委員をやっているが、そういう大規模小売店舗が進出するときに、地元の町会の行事を手伝うようにというようお願いをすることもある。

そういうふうに結構、積極的に、企業とか高等教育機関とか、もしくは高校生とかと一緒に何かできるようなイベントに、半強制的というか、ある程度、声かけをする。まずは、関わるのが先で、関わって行って、「こういう行事があるんだな。自分の住んでいる町会でもあるんだな。」というようになると思う。

なかなか若い人たちというのは、時間帯が合わなかったりして町会の行事に参加しにくいので、例えば、会社からの命令というか「ボランティアで行きなさい」みたいに言われ、行ってみたら、エクセルできるんですというような話になるかもしれないので、まずは、関われる行事なりを、さっき話があったと思うが発信する、もしくは、市や行政機関の圧力ではないが、やっぱり、関わって行ってもらう、ある程度の組織、影響、圧力とかかけていけたら、少しは増えるのではないかなと思う。

そこから育てていく。無理にお願いはできないので、どうしても任意で活動しないといけないというのは、そこの人たちの良心というかボランティア精神に託すところがあると思うので、やはりそれを経験して、ああ、やっていて良かったなという思いを育めるような、なかなか難しいかもしれないが、そういう機会をつくっていかなくちゃいけないと思う。

(奥平委員長)

ある意味、企業を巻き込むと、そういう話だったかと思う。

(上野山委員)

うちの町会は、子どもが多いということがあって、菊池副委員長が言われたのは高校生以上の方だったが、私はもっと小さいうちから教えようと思っている。

元々町会には、ジュニアサポーターという、今、活動はほとんどないのだが、お祭りの時とかにジュニアサポーターという組織をつかって、子どもたちにいろいろやってもらうというのがある。

これまで祭りができなかつたので、今回も、子どもたちも親が手伝うから手伝うよとか、そういうことで来てくれた子どもたちがいて、その子たちに、一つのブースを預けて、中学生以上にお金を管理させてゲームコーナーとかやってもらった。そうしたら他の子も手伝いに来て、いつのまにかやってもらっていたというのものもあるが、町会のお祭りが楽しかったという思い出を子どもに植え付けさせている。

だから、子ども向けの行事とかそういう事業を結構やっている方ではある。

その子たちが大人になった時に、そういえば町会で子どもの時にこういうことをやってくれた。大人たちがいろいろ用意してくれたからなって思って、大人になった時に、今の自分の町会ではなくても違うところに行ったら、次につなげるために何か手伝おうかな、こういうの楽しかったからやろうかなと思ってもらいたいなということで、今、積極的に子どもたちに町会のことをやらせようとはしている。

ゴミ拾いも、今まで子どもは、ほとんど来たことがないが、去年から学校にポスターを貼ってもらって参加を促して、去年の秋で5人ぐらい来て、今年の春は14～15人来て、隣の町会の子も友達に誘われたから来たと言って、親と共に参加してくれた子とかもいたりとかして、そういうのも、もっと小さいうちから植え付けようとはしている。

町会って何をやっているか、どうしてこういうことができるのかというのは、やっぱり見せていった方がいいなということで、今から、なるべく小さいうちからやらせて、町会を体験してもらおうとは思っている。

(奥平委員長)

他にないか。中村(馨)委員いかがか。

(中村(馨)委員)

まず、担い手という言葉がどうかというところもあるとは思いますが、確かに各町会、一番の問題点は、なり手不足と高齢化です。これは、たぶん、どこの町もそうだろう。

ただ原因が、さっき丸藤委員が言ったように、元々いないところもあれば、いるのだけれども、その人をつぶしてしまうことも多い。

そういったところをどうするのか、元々いないところは先程言った、例えばコミュニティ・スクールと連携を取ってPTAの方に話をするとか、いろんなNPOの方に話をするとか方法論はいろいろと出てくるので、これはいいなと思った。

また、先程、担い手を育成するとか育むという話があったが、意外と育んだり、育成することが下手なのが町会だと思う。きちんとできるところもあるのだが、役員の中には、

「言う通りやらないのだったら辞めろ」と言う人も多い。そうになると、育むどころではなくて、そこをどうするのかというのが一つある。

だから本当に育めないところに対しては、どんなに人を紹介したり入れたとしても、潰すだけになってしまう。これが結構、多い気がするので、そこを解決して欲しい。

(奥平委員長)

そこまで今回いけるかわからないが、。石郷岡委員，何かあるか。

(石郷岡委員)

先程，パソコン作業とかできる人がいればみたいな話があったのだが，そういう作業は，今，町内会の人全部ボランティアでやっているのか。

(上野山委員)

そうである。役員がやっている。

(石郷岡委員)

役員もボランティアなのか。

(上野山委員)

そうである。いわゆる，給料とかそういうのはない。

しかし，部長職になると活動費みたいな感じで5千円から1万円ぐらいとかもらう。年間それぐらい。

そこも他の町会で，いろいろ違っていて，あるところは町会長になると月10万円と聞いた。うちの町会は，前まで0円で，やっと今年から少しぐらいもらいましょうとなって，会長が3万円で，副会長が1万円となった。そこは，ばらつきがあるのだが，ほぼボランティアである。

(石郷岡委員)

さっきの，ゴミ拾いの話とか聞いていて，ボランティアが好きな人はやると思うのだが，ボランティア好きな人がいっぱいいないから，町内会に入る人があまりいないのではないかと思う。

初動でいきなりボランティアでというのはなかなか難しいと思うから，最初は，さっきの企業から行けと言われてたら，それは行くだろうし，いいかなと思った。

あと会計が難しいのであれば，それこそ外部に，会計士に頼んでもいいなと思うのだが，それは町内会で支えていくっていう発想と違うということなのか。

(上野山委員)

それをやると，町会費の無駄遣いと言われる。うちでも事務所にクーラー入れたいと言

うと無駄遣いと言われるので、この暑い中クーラーがない中で作業したりしている。
何かやると、町会費で飲み食いしていると、そういうふうに言われてしまう。

(石郷岡委員)

さっきの合併の話で、実際、合併するとなった時に、手続きがわからないから、行政書士や弁護士に頼む、相談に行く、弁護士と契約するとなったらそれも無駄遣いと言われるのか。

(上野山委員)

一部ある。そこは、たぶん明確に、こういうことで使いましたと言うと、みなさん納得はすると思うのだが、果たして、使わなければいけなかったのかという話にはなる。

(石郷岡委員)

その人が持っているパソコンを使えるという、簡単かもしれないけど技術とか知識、そういうものに対する対価、評価がちゃんと見えてないんだと思う。

(上野山委員)

私も、去年の春までパソコンを使えなかったけど、独学で全部ネットで調べてやっている。その分に対しての対価、お金とかというのはもらうこともないし、その分、仕事を休んでいたとしてももらうこともない。

(石郷岡委員)

やっぱり能力に見合った対価という観点も大事なかなと思う。

(奥平委員長)

今、委員のみなさんから意見が出たが、最後の最後が一番実は大事だったかなという感じもする。

実は、対価の問題とは、ボランティアに対価を払っていいのかという議論になってくる。

私は、観光ガイドの育成もやっていたが、観光ボランティアガイドとは、実は一銭も払わないというのが、どうもあったらしい。そうしたら、交通費を払うとなったら、まかりならんとなる。交通費をもらった時点でボランティアでないという話になって、何が何だかわからないみたいな感じになって、ボランティアを取ってしまえ、観光ガイド養成にしまえと言ったら、それはOKになるという、よくわからないボランティア議論が出てきたりすることがあって、たぶん、町会もそのようなかたちになっているのかなと思う。

労働対価がきちんと支払われていない中で、担い手が育つわけがないですし、誰がそんなことをするかという話になってもおかしくない状況なのかなということ、最後になって明らかになってきたことがあるということ、正当な対価を、どう町会の中で役員に払うのかというのは、実は大事な部分である。それは確かにただ働きしろと言っても

やらないだろうから、その部分をどうするのか。

実は私、思っていたのは、町会は、割とお金を持っているのではないのか、使わないようにしていないかという感じが何となくする。使うことは、悪みたいな話もありました。そうすると、何のために町会費をため込んでいるのだという話になってくると、逆に、役員会などで聞かれたりすると、みんな困るのではないかなと思う。

そう考えると、その部分もスリム化の一つ、それから合理化の一つになっていくのか、そして、それが実は最後の「なり手・担い手の確保」につながっていくのかなと思う。

あと、事例として、教育大の学生が、弁天町会の役員をやっていて、弁天町会と協働でいろんな事業をやっている。それは、わらじ荘というのだが、弁天町会の中に住んでいて、住んでいるところに町会長がやってきて、何かやらないかみたいな話をし始めたのがきっかけということである。

そういった事例も、あそこは学校がないけれども、うちの大学の学生がやっているみたいなところも出てきているので、そういった事例というのも、もしかすると、いろんなところで使えるのかなという感じもしている。

たぶん、うちの学生の中にも、そういうのに興味がある学生が、おそらく相当数いると思う。問題は、対価の問題が出てくると思うけれど、その部分をクリアできるかどうかという部分が一つ大事だと思う。

あともう一つが、みなさん全然気づいてはいないと思うのだが、函館は、高齢者の方がものすごく働きたがる。

高齢者大学というものがあり、高齢者大学に通われる方々は、ボランティア精神のかたまりみたいな人たちばかりいて、とにかく何かしたくってうずうずしている方々がいる。

私も講師をやったことがあるのだが、高齢者大学で、もしかして人材を募れないかなという感じがしていた。高齢者大学の方々に、こういうことできる人いませんかみたいなことを聞くと、おそらく相当数あがってくるのかなと思う。

今、美原と湯川2カ所でやっているが、そういった人材というのは、市内にたくさんいると、1講座に、だいたい100人くらい来るので、そういった方々の老後のお楽しみにも使えるのではないかと、そうすると、函館に老後住んでもいいみたいなことになると一石二鳥なのかなという感じも、今日受けたところである。

本当に今日は、いろんな意見を頂戴し感謝する。今日は、一生懸命お話をしてきたけれども、結果的に、かなり深く突っ込めたかなというところもあり、かなり本音の部分も出てきたのかなという感じもする。

3回目以降、今度は、結果の方を含めて入れていくという作業もあるが、まだ、積み残したスリム化とかそういった部分も引き続き3回目で話をしていければいいのかなと思うので、また協力をお願いします。それでは、何もないければ事務局にお返しする。

3 その他

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

ご議論、感謝する。事務局の方にも宿題をいただいているので、次回、提示させていた

だく。

本日、皆様から本当に幅広い意見をいただいたと思う。集約して、次回会議で改めて示したいと思う。また、まだまだ言い足りない部分、思いついたことなどあれば、今月いっぱい、事務局にメール・電話等いただければ、併せて、次回会議で示したいと思う。

次に、次回の会議の予定だが、9月下旬から10月上旬にかけて開催したいと考えている。後日、あらためて日程調整をお願いする。

事務局からは、以上である。

(奥平委員長)

ただいまの連絡事項に対し、何か質問等はあるか。

よろしいか。それでは、これで本日の会議を終了したいと思う。事務局に進行を返す。

4 開会

(事務局 奥ヶ谷主査)

これをもって、第2回 函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会を終了する。